

昨今少子高齢化が進み、長生きをする高齢者が増えている。高齢者が増えるということは認知症の状態となる人も増えるということであり、グループホームの必要性が今後も増す可能性があると感じますが、一概にそうとも言えないのではないかと最近思っています。これまで支援を受ける側だった認知症の当事者が、今や社会に対して自分の思いや考えなどを公表する発信者となるなど、時代は変化してきていることを感じます。グループホームの入居者様も出来ることを行っていただきながら役割を持ち、達成感を感じられるような支援から、携帯電話やスマートフォンを当たり前のように活用し、やりたい事を実現できるような支援へと変化してきており、共同生活を活用しながら

も「自分らしく」を追求できるような生活を目の当たりにし、支援の向上という言葉の枠だけでは収まらない対応が必要になってきていると感じます。今後の支援を考えた時、グループホームという共同生活の形が合わない人が多くなるのではないかと思います。ニーズは人それぞれであり、やりたい事を実現できる支援を高めていく中でグループホームの形で出来る事とできない事が選別され、新たな形態での支援が必要となるのが想像でき、そしてグループホームを選択する人が減り、事業所の統廃合などが増えるようになるならば、そういった時代の変化の中で事業を継続していくには、やはり共同生活という形態の中での強みや支援の向上を追求し、選ばれる事業所となるように努める必要があると感じています。

入居される人のニーズが変化し、グループホームに対応ができるかどうか問われてくるのであれば、その準備を進める事が必要であると感じます。事業所の個性や特定のニーズに対応できる付加価値など、何が出来るか、どうしたら出来るか。支援に際し、できない理由を挙げるのではなくできる方法を追求し続ける支援者でありたいと思います。



大空と希望



一般社団法人 北海道認知症グループホーム協会
広報誌【大空と希望】2025年3月発行
〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地 かでる2・7 4階
TEL: 011-208-3320 / FAX: 011-204-7312
URL: https://h-gh.net

『身体は食べたもので作られる 心は聞いた言葉で作られる』

一般社団法人 北海道認知症グループホーム協会 会長 宮崎 直人

乙武洋匡さんのお母さんのお話です。乙武さんは、産まれた時から四肢障害でした。手と両腕と両足がなく肩から指が出ていて太ももの付け根から足の指が出ていました。初めての子供でしたので、病院の先生はお母さんと乙武さんを会わせなかったそうです。なぜならば、出産直後のホルモンバランスの悪い母体、そんなお母さんの状態で乙武さんに会わせることは、これまでの経験上、気が触れる可能性があるからでした。ですから、今は保育器に息子さんは入ってらっしゃいます。命に別状はありません。数日経ったら、必ず大丈夫になるので安心して下さいねと、嘘を言って会わせなかったそうです。そして数日経って、お母さんのホルモンバランスも少し整ってきて、しかも何日も会わないと、逆にそれが不安になる可能性があるため、いよいよ対面するということを決めます。それでも、もしかしたら会った

瞬間に気を失う可能性があるから、万全の体制で対面したそうです。そしてその状態の乙武さんをみた時に、お母さんは何と言ったか？『なんて可愛い子なのよ！』『いい？あなたは何でもできるのよ！』この二言を、お母さんは大人になるまで毎日言い続けたそうです。なんて可愛い！あなたは何でもできるのよ！乙武さんが小学校に上がって、同級生にイジメられます。それでもお母さんは、毎日、あなたは本当に可愛い！何でもできるのよって言い続けたそうです。乙武さんは、大人になってこう言います。僕は、手足がなくて不便なことはあったが、何不自由なく大人になった！僕は、自分が大好きなんだ！彼はものすごく自分が大好きなんです。だから自分が思ったことは、全部実現しています。本も書いた。講演会もやった。杉並小学校の教員もやった。議員にもなった。あまりにも自信に溢れていて、女にモテす

ぎて、全ての女性は俺を愛していると思って、いろいろ手をつけて議員はクビになった。障害を持って産まれた子というのは、セルフイメージがあまり上がらない傾向にあるそうです。でも彼は違いました。今は結婚して子供も生まれ、休みの日は子供とキャッチボールをします。彼は手がほとんど普通の人と違うので、スポーツ用品店に特殊なグローブを専用で作らせて、そして息子にボールとグローブを渡し、『よし！投げる！でもな、父ちゃんは真ん中しか取れないから、真ん中に投げるんだぞ！すごいお前は天才だ！何でもできる！』って子供を育てています。私たち人間は、聞いた言葉で作られるんです。日々、認知症の状態にある方々と関わる私たちにも通じる教示であると思いましたので、今回皆さんと共有させていただきました。

感謝

編集後記

円安、物価高、少子化、賃金を上げたいが原資がない。皆さん運が悪いのか、行いが悪いのか？ はたまた政治が悪いのか？ 答え：政治が悪い 中でも、気を取り直して、それでも運のよい人がしている5つの習慣を紹介します。

1. 素直であること

運とは天からの恵み、万人に公平に分け与えられるものではありません。素直であれば、チャンスを招き入れる機会を多く作れる体質になります。否定的な考えから疑心暗鬼になっている人に幸運の女神の前髪を掴むことはできません。

2. 謙虚でいる事

「私が、私が」といった自己主張や承認欲求が強い人は、それだけで品格のなさが悪目立ちしてしまいます。出しゃばらずとも、謙虚でいて、さりげない心配りが他人にできるこそ、品格や、徳のある人に見えるものです。

3. コミュニケーション力を鍛える事

人が背負ってきた経験や知恵、人脈や才能などの人生背景は目に見えませんが、決して侮っては、その力を借りる日が、いつかどこかであるかもしれないからです。優れたコミュニケーション力を鍛えることで、相手が持つ多くの英知や経験則、能力や人脈を教えられるだけのご縁を頂けるのです。

4. 相手のタイミングに合わせられる調整能力をもつこと

自分のタイミングに合わせてもらう事しか考えられなければ、多くのチャンスを逃すこととなります。新しい扉が開く確率も大幅に減少してしまいます。チャンスは突然やってきます。そのチャンスを沢山つかむためには、あらゆるタイミングに乗れる調整能力を身に付けることです。



5. 相手の喜びことを、さりげなく行うこと

人は自分がされたくない事を人にすべきではない。逆に言えば人がされて嬉しいことを、自分が相手にしてあげれば、喜ばれるわけです。相手の気持ちを考えて、さりげない思いやりを言動に込めたり、ちょっとした嬉しいサプライズを仕込んだり、相手のために考えた工夫をすることで、あなたの人間関係や良くなり周りからの評価が高くなり、人から好かれるものです。



事業委員会 担当 副会長 平山 洋一

ワンズホームの取り組み【十勝ブロック 松山 岳詩】

私のホーム（ケアサポート ワンズホーム）も同様ですが、多くの介護施設では、「お金を使える機会が少ない」「献立があらかじめ決まっています、利用者さんの食べたいものがメニューに反映されづらい」「外出もままならない」といった状況が、日常的にみられることが多いのではないのでしょうか？ たくさんの制約がある生活は、利用者さんが能動的に行動する機会を奪い、その結果として、ただ漫然とリビングで座っている、という光景を生み出すことにつながっているのではないかと考えます。そうした状況を改善し、利用者さんに少しでも役割や生きがいを持ってもらうため、当ホームでは、以下のような取り組みを行っています。

■外部からの依頼を受け、利用者さんが作業（加工用羊毛のゴミ落とし）



■仕事の対価として、若干の工賃をいただく

■たまった工賃を、利用者さんに還元（仕事に参加した利用者さんで外食、食べたいお菓子の購入など）

土地柄、「小さい頃、自宅で羊を飼っていたよ」という方も多く、取り組みの導入は比較的、スムーズに行うことができました。また、仕事を通じて次のような効果もみられています。

●BPSDの減少（帰宅願望が強く、夕方よりホーム内をウロウロすることが多い利用者さんも、1時間以上、集中して仕事に参加など）

●自然と利用者さんが集い、それぞれに会話が生まれる

●やり方が分からない方に、分かる人が教える協力関係の発生、など

今後も、こうした取り組みを通して、利用者さんの生活が「普通」に近づけるよう、サポートしていきたいと思っております。

※市町村によっては、こうした取り組み（介護保険サービスの受給者がお金を稼ぐこと）に対する受け止め方に温度差があるため、実施の際は注意が必要です。



グループホーム めぐみ野 紹介【道東ブロック 走上 敬太】

4つの経営理念（地域貢献・健全経営・人財・成長）、5つの行動指針のもと、平成15年4月、当社開業とほぼ同じくして、グループホームめぐみ野が開設となりました。当ホームが日頃から心掛けていることは、利用者様にとって、ホームが我が家であるような空間を作り上げること、そして、どのような時も常においしい食事を提供することです。グループホームの原点とも言えることとなりますが、利用者様と色々なことをともに学び、ともに喜びながら、現状に満足することなく我々も成長をしていく。結果、利用者様はもとより、当社スタッフも過ごしやすい空間が作られるだろうと考えております。

また、釧路の地の資源を有効に活用し、手作りにこだわった、利用者様の活気に繋がるような食事を提供しております。

また、コロナ禍が終息し、日常生活を取り戻しつつある現在は、当ホームでは、個別レクを積極的に実施しております。例えば、先日、ご夫婦で入居している利用者様が犬の動物好きということもあり、少人数で動物園に行ったり、普段中々食する機会がなかったお寿司を食べたいという利用者様と回転寿司へ行ったり、コロナ禍では難しかった外出が増え、利用者様が帰宅してからの充実した顔を見る



ことは、とても喜ばしいことです。ホームにおいて日常から心掛けていることに繋がりますが、この仕事はある種変わっており、些細なことで「ありがとう」って言っていただいたり、ご家族さまからも感謝していただいたり、サービス業の中でこんなにも人から感謝されていることを実感出来る仕事は、とても珍しいのではないのでしょうか。当ホームのスタッフの離職率が非常に低く推移しているのは、この仕事の魅力のひとつである、「ありがとう」で満ち溢れた心地良い空間と時間をともに過ごしているからではないでしょうか。



グループホーム ことぶき 紹介【道北ブロック 酒井 安弘】

グループホームことぶきは、北海道旭川市の中心部にある18床（2ユニット）の認知症対応型共同生活介護事業所です。施設の特徴として、経営者が理学療法士であるため、リハビリの視点を日常生活に取り入れ、必要に応じて評価やトレーニングを随時行っています。

また、認知症指導者をはじめ、認知症に対する専門知識を備えたスタッフが多く在籍しており、利用者様の認知機能や身体機能、精神機能の向上を通じて喜びややりがいを感じ、それをエネルギーに変えながら良質な支援を目指しています。そのほか、



ことぶきには多くの強力なサポーターが出入りしています。施設には非常勤の看護師が配置されており、全身状態に変化が生じた際には訪問看護師と協力し医療行為を行います。また、取得率の低い生活機能向上連携加算を取得しており、外部の作業療法士と計画作成担当がリハビリの視点をケアプランに積極的に取り入れています。さらに、訪問診療医が月に2回全身の管理を行い、歯科医師や歯科衛生士が口腔内の衛生管理や治療を担当し、管理栄養士が栄養面での管理を行っ



ています。これらのプロフェッショナルが様々な角度から総合的にサポートしています。利用者様においては、できるだけ顔なじみの方と長く生活していただけるよう、軽度で入居される方が多く、軽度の方が重度の方を気遣う状況も多く見られます。施設内では、職員と一緒に掃除や洗濯、調理や食事の準備、後片付けなどの役割を担い、皆で補い合いながら生活しています。



オホーツクブロックの取り組みと我が事業所の取り組み【オホーツクブロック 南 克彦】

オホーツクブロックの最近の状況をお伝えしたいと思います。コロナ禍になってから外部研修等が出来ない状況が続いておりましたが、令和5年5月に5類感染症に位置づけられ、外部研修も再開出来るようになってきました。令和5年には、助成事業で虐待研修と事例検討会を開催、キャリアパス支援研修事業ではアンガーマネジメント研修を開催いたしました。コロナ禍明けと言うこともあり参加人数がなかなか集まらない状況でしたが、他事業所の職員との外部研修は、やはりいいなと感じました。令和6年に入り、ほぼ通常通りに生活も戻り、世の中は色々な面でコロナ感染など無かったような状態。ただ、インフルエンザ感染、コロナ感染は続いている。



今年度の研修は、虐待研修とBCP訓練の研修を開催いたしました。BCP訓練（写真）では、今年度から必須条件にてどのような訓練をしたらよいか皆が皆さん困っていたようなので大変勉強になりました。机上訓練を基本として開催しましたが、先ずは持参した作成したマニュアルを各自確認しながら、地域別（海岸地域や内陸）に分けグループワークにて研修をしました。訓練までは出来ませんが、どのように進めたら良いかは参加された方は参考になったようです。今年度も2回の研修を開催しましたが、参加者が少なく昨年まではコロナの影響かと思っておりましたが、どこの事業所も職員不足があり、なかなか参加が難しい状況との事でした。我が事業所も職員不足にて3年前より外国人技能実習生の



力を借りております。今では2事業所で6人の実習生が、頑張ってくれております。皆さん日本語の上達も早く、やはり利用者さんとのコミュニケーションが上達に繋がっているのかなと感じています。私自身、評価員をしておりますがこの事業所に行っても明るく元気で仕事しております。また、ICTの活用もしており、記録をタブレットに変え、AIにて利用者さんの状態を把握し少しでも職員の仕事の軽減を図ればと思っております。今後もロボットの活用も考えながら将来の職員不足に対処出来ればと考えております。ただ、マンパワーは必要不可欠であると思っております。最後にオホーツクの海に流水が来ましたので写真を撮りました。



2025年度（令和7年度）研修日程 及び 開催地域 ※予定

認知症介護実践研修（実践者研修）

- 第1回【札幌】2025年 5月8日～7月3日
- 第2回【旭川】2025年 6月3日～8月6日
- 第3回【苫小牧】2025年 7月23日～9月8日
- 第4回【幕別】2025年 12月17日～2026年 2月18日

認知症対応型サービス事業管理者研修

- 第1回【札幌】2025年 7月3日～7月4日
- 第2回【旭川】2025年 8月6日～8月7日
- 第3回【苫小牧】2025年 9月8日～9月9日
- 第4回【幕別】2026年 2月18日～2月19日

認知症介護実践研修（実践リーダー研修）

- 第1回【札幌】2025年 9月1日～10月21日
- 第2回【苫小牧】2025年 10月20日～12月2日

認知症グループホーム 事例発表 北海道大会（仮称）

2025.11.26/27

会場：札幌市内
開催予定

※日程等変更になる場合がございます。詳しくはホームページ等をご覧ください。

URL <https://h-gh.net>

2025年度 助成事業

- 事業委員会担当 -

ブロック	時期	開催地	事業名	講師等 (敬称略)
札幌	2025年 10月上旬	札幌市	プレイヤーからマネジャーに ～マネジメントの本質～	林原 豊
道南	2025年 12月 5日	函館市	法定研修対応スキルアップ研修会	加藤 和也
日胆	2025年 9月17日	室蘭市	日胆ブロック研修（室蘭）	宮崎 直人
	2025年 10月15日	苫小牧市	日胆ブロック研修（苫小牧）	
	2025年 11月19日	新ひだか町	日胆ブロック研修（新ひだか）	
道東	2025年 7月中旬	釧路市	認知症ケア研修	未定
オホーツク	2025年度中	未定	スキルアップ研修	未定

